

(様式)

令和6年度 津山市立高野小学校 学校評価書

校長 高岡 昌司

1 自己評価

I 評価結果

項目	成果と課題（達成状況）	評価
<p>【学力向上】</p> <p>・授業が楽しいと言 う子</p> <p>【落ち着いた学習 環境の整備】</p> <p>・児童アンケートを指 標とする</p> <p>・「授業が楽しい」と 回答する割合80% 以上を達成基準とす る</p>	<p><教師アンケート>◇「授業で「振り返り」まで」(1月末) 3~4年:ほぼ100%、5年:70% 6年80%</p> <p>□中学年、高学年とも、授業タイムマネジメントが進んだ。</p> <p><児童アンケート></p> <p>◇「授業が楽しい」90% 「チャイムスタート」90%</p> <p>○全学級で共通した指導の事項、日頃の授業について、 改善①まとめ、振り返りまで必ずやりきる力を意識する。 改善②『書く力』の育成として、「びっしり書く」を徹底。 改善③ 主体性の育成として「必ず挙手、名札で表明等」 改善④ 授業の中で仕掛けを実施した。</p> <p>「ギミックブラッシュアップシート」の活用。</p> <p>□2学期は授業研究を2回全校で実施。3学期で全職員が授 業研究を行う。</p> <p>・各学年1人3回ギミックブラッシュアップシートを活用し授業 公開を行った。</p> <p>□チーム担任制や教科担任制により日常的な授業の情報交 換は定着した。</p>	<p>B</p>
<p>【体力向上】</p> <p>(徳育)</p> <p>【自己肯定感】</p> <p>自分には良いところ があるという子</p>	<p>2学期末実施</p> <p>(1)自分には、よいところがある。 本校70.4%</p> <p>(2)将来の夢や目標を持っている。 本校76.3%</p> <p>(3)地域や社会をよくするために何かしたい。 本校80.3%</p> <p>□おおむね 7割の児童は自分なりに頑張っている肯定的な 意見がある。先生がよくほめてくれる、認めてくれると感じ ている児童は8割になる。</p> <p>◇全校による「サツマイモ」や「とうもろこし」、「野菜」等の栽 培活動を実施。別室児童による学級園栽培「すいか」「じ ゃがいも」等を実施。</p> <p>→今年度は全校で取組、ペア学年で収穫や調理を実施。</p> <p>◇非認知能力の育成に関わる授業公開を実施した。</p> <p>→ 授業公開(10月・12月・1月)</p> <p>◇個人の頑張りを全校で表彰する取組</p> <p>「にじりん賞」(英語、読書、あいさつ、自主学習、歌声、なわ とび、など)個々の頑張りを表彰する取組</p>	<p>B</p>

(A:目標を上回っている B:ほぼ目標どおり C:目標を下回っている)

II 分析・改善方策

☆「高野小学校で大切にすること」をプレゼン資料にまとめ毎週発信した。具体的な取組とその目的について教職員で共通理解しながらフィードバックする機会となった。併せて、学校 HP を毎日更新したり、学校だよりでは学校の現状や学校全体での取組を掲載したりして、保護者や地域の理解協力のための情報発信を行った。

☆毎週、企画チームで学年学級、児童の状況について情報共有を行った。

☆来年度は、美作大学との連携事業を実施する予定である。年15回、金曜日の午後に美作大学4年生17名が来校し、3年生以上のクラスにおいて、基礎力向上の取組を行う。

2 学校関係者評価委員会

堀内映二 氏（高野連合町内会長）	仲矢武夫（老人クラブ会長）
永禮 茂 氏（高野公民館長）	早瀬真由美（主任児童委員）
竹林美和 氏（元 PTA 会長）	大谷大介（PTA 会長）
町田 亘 氏（元 PTA 会長）	出口 実歩（PTA 会計）
小西真由美（地域学校協働活動推進員）	

3 学校関係者評価

「子どもの人数も多い中、高野の先生たちは本当によく頑張っているし、教職員に一体感を感じる」、「どのクラスも先生と子どもが明るい雰囲気がある」「学習環境や考えさせようとする取組が共通して見える」「チーム担任制が完全に定着している」「支援員さんの動きが良い」「課題がある子はどの学校にもいる、高野小も同じで、児童個々の課題が大きい」等、大きく高野小学校が変わってきたことをしっかりと評価いただいた。

○保護者・地域が一体となって児童を育てるため、PTAと学校運営協議会のさらなる連携協力を確認した。まだまだ、登下校等の課題はあるが、児童一人一人に寄り添い、地域とともに「安心・安全な学校」をつくる必要性が協議された。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

○「高野小学校で大切にすること」をプレゼン資料及び、学校 HP を毎日更新したり、学校だよりでは学校の現状や学校全体での取組を掲載したりして、保護者や地域の理解協力のための情報発信を行っていく。

○学力と同様、体力も本校の課題であることから、来年度も取り組みを継続する。活動内容が長期に渡ると、マンネリ化している傾向もあるから、全職員で年間計画の見直しを行う。

○CS、地域の方が定期的に学校に来校し、学力向上の取組に参加できるような計画を来年度は検討したい。